

講演会「繊維土器を覗いてみると」

縄文時代に、動植物の繊維を混ぜ込んで作られた土器があります。繊維土器と名付けられたこれらの土器は、縄文時代の初頭から前期の前半にかけて主に関東から東北にかかる地域において制作されました。何のために、どのような繊維を、どのような形で混ぜ込んでいたのか未だに十分な説明がなされたとは言えない状況です。

私たちが観察した結果を基に、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

日時：平成24年5月12日（土） 13：00～17：00

会場：東京大学総合研究博物館 7F ミューズホール

※事前予約は必要ありませんが、先着順とさせていただきます。

演題とスケジュール：

13：00～13：05 挨拶、趣旨説明 吉田邦夫（東京大学総合研究博物館）

13：05～13：50 「繊維土器の研究を振り返ってみると」

武井則道（横浜市歴史博物館）

縄文土器に植物繊維が入っていることがわかったのは昭和の初めです。この繊維土器を鍵に縄文土器の編年的研究と製作に関する研究がなされました。この研究のことどもについて述べます。

13：50～14：35 「割れ口から覗いて視ると」丑野 毅（東京国際大学）

土器の破断面には多くの情報が記録されています。ここでは土器に混入されている繊維の圧痕に的を絞って、その観察結果をお話しします。

14：35～14：50 休憩

14：50～15：35 「薄片にして覗いて視ると」河西 学（帝京大学文化財研究所）

繊維土器の断面を薄く切断・研磨して作製した薄片を光学顕微鏡で覗き視ると、残存している植物繊維と土器胎土内部の構造が明らかになり、粘土紐の積み重ね方が推定されます。

15：35～16：20 「土器を透かして視ると」宮内信雄（十日町市教育委員会）

X線で透かして視た土器の内部に、どのような繊維が混じっているのか観察し、そこから推定される繊維土器の製作技術について紹介します。

16：20～17：00 「討論および座談会」

司会：吉田邦夫、武井、丑野、河西、宮内